

表1 市税の内訳

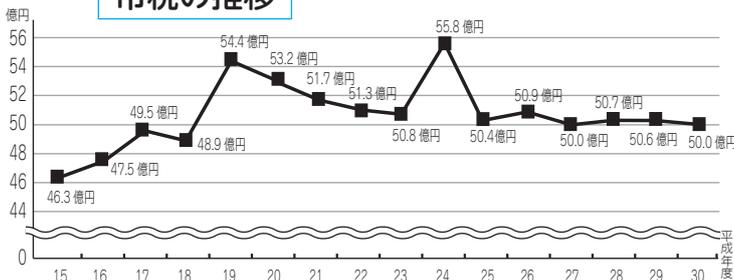
市民税	20億1,878万円
固定資産税	25億5,732万円
軽自動車税	1億4,274万円
市たばこ税	2億4,777万円
入湯税	3,343万円
計	50億4万円

分担金及び負担金	
諸収入	5億7,197万円(1.9%)
財産収入	1億1,833万円(0.4%)
繰越金	9億9,562万円(3.4%)
繰入金	16億7,591万円(5.7%)
使用料及び手数料	4億9,819万円(1.7%)
寄附金	8,432万円(0.3%)
計	2億9,008万円(1.0%)

歳入と歳出の差引額は
13億5,923万円（繰越金）

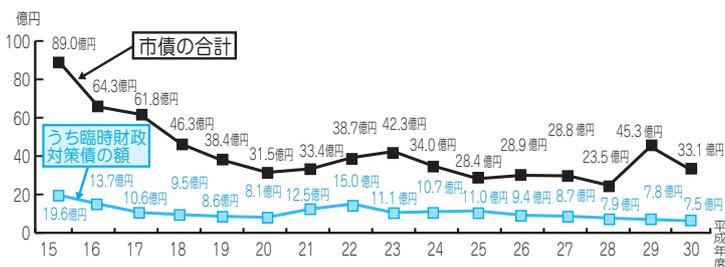
- （内訳）
- 平成30年度内に完了できず、令和元年度に繰り越された事業の財源＝5億6,919万円
 - 予算以上の歳入があった場合や、節約により予算額以下の費用で執行した場合などの純粋な余剰金＝7億9,004万円（令和元年度予算の財源となります）

市税の推移



◀平成18年度から平成19年度にかけては、国の三位一体改革による税源移譲のため、市税が増えました。また、平成24年度は、一時的に事業外収益による納税額が増えた会社があったため、法人市民税が大幅に増加しました。

市債の（借入金）推移



◀市の厳しい財政状況から、今後も計画的に借り入れを行う取り組みを継続します。
※臨時財政対策債とは、地方交付税として交付すべき国の財源が不足した場合に、その不足分を地方自治体が直接借り入れを行うもので、その元利償還金は後年度の普通交付税の算定に全額算入されます。

決算

市の家計簿

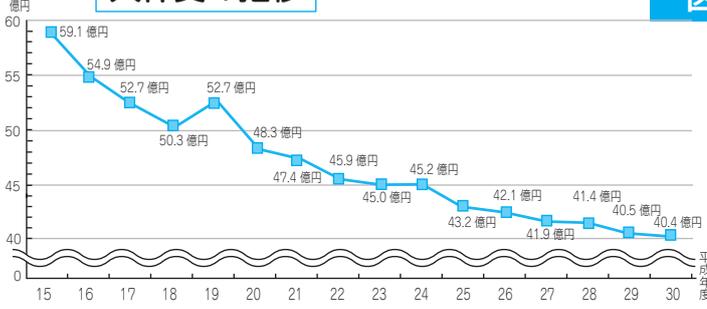
平成30年度の郡上市の各会計決算が、令和元年第2回市議会定例会で認定されました。
みなさんに納めていただいた税金は、この1年間でどのように使われたのでしょうか。一般会計を中心にその概要をお知らせします。

平成30年度の郡上市一般会計の決算額は、歳入（市に入ったお金）が296億2992万円、歳出（市が使ったお金）が282億7069万円となりました。
歳入・歳出額を市民一人あたりに換算（平成31年4月1日人口114万1592人）すると、入ったお金は71万2395円、使ったお金は67万9715円となります。

▼市に入ったお金 図1

歳入で一番多いのは、地方交付税で、120億9039万円が交付されました。地方交付税は、市税などで賄いきれない市の財源を補うために国から交付されるもので、合併11年目（平成26年度）から普通交付税の合併に係わる特別措置が段階的縮減期間に入っていました。平成30年度で合併に係る特例が終了となり、今年度（令和元年度）からは加算がなくなります。
主に建設事業の資金として国や金融機関等から借り入れた市債は、33億1480万円となっています。
また、市民のみなさんから納めていただいている市民税や固定資産税、軽自動車税、市たばこ税などの市税の内訳は表1のようになります。
自主財源の根幹となる市税収入は50億4万円、市民一人あたりに換算すると12万216円を納めていただいたこととなります。
次に、お金の使い道について紹介します。平成30年度決算の歳出の中で、一番大きな割合を占めているのが、民生費で58億8852万円です。みなさんの生活の手助けをする福祉、医療費などに使われています。2番目は公債費で42億6219万円となっています。これは、まちづくりのための借入金の返済です。3番目が総務費で40億7617万円です。全体的な事務や財産管理などに使われました。

人件費の推移



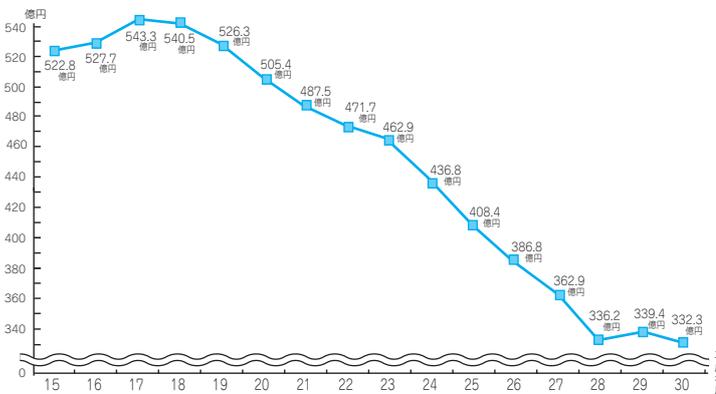
▲人件費は職員数の見直しなどにより、合併時から約18.7億円削減しました。

投資的経費の推移



▲投資的経費は道路などの整備に使われていますが、平成15年度から縮減しています。平成23年度は、白鳥中学校の整備や災害復旧事業によって、平成29年度は郡上市北部斎苑や郡上市産業プラザなどの建設事業により増加しています。

地方債残高の推移



▲平成30年度決算では332.3億円となり、平成17年度のピーク時と比べると211.0億円減りました。今後も減らす努力を継続していきます。

図2

歳出：市が使ったお金（一般会計） 282億7,069万4,521円

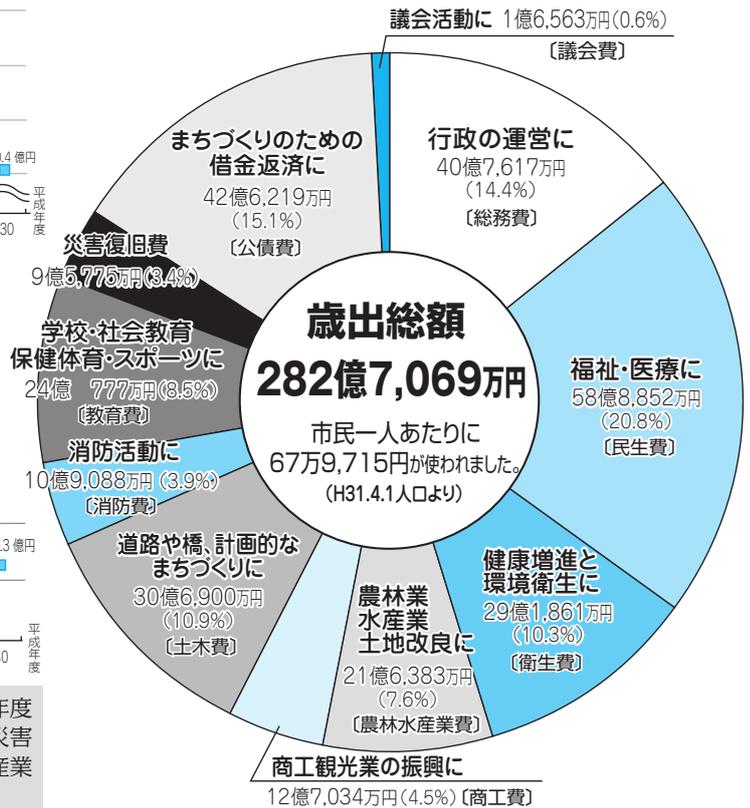
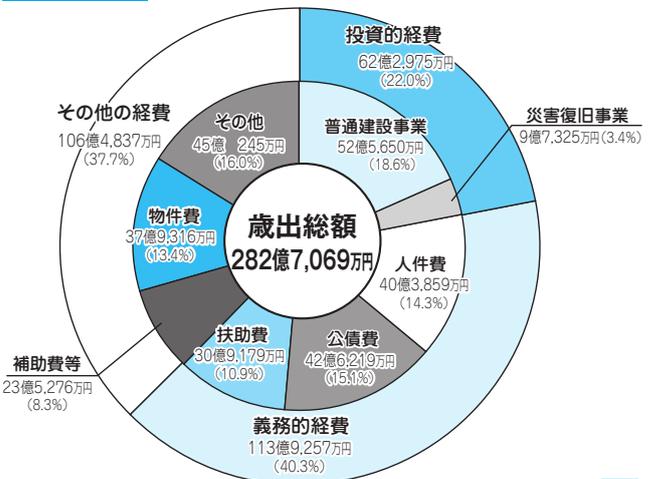


図3

性質別歳出の内訳（一般会計）



用語説明

議会費…議会の活動に要する経費で、議員の報酬や委員会の運営費

総務費…一般的な管理事務、企画調整事務、財政・財産管理に要する経費

民生費…社会福祉、障がい者、高齢者、児童福祉、生活保護、災害救助関係に要する経費

衛生費…市民のみなさんが健康で衛生的な生活環境を保持するための経費

農林水産業費…農作物の生産、園芸振興、農地、林業、水産業に要する経費

商工費…商工業の振興、その他観光事業に要する経費

土木費…道路橋梁、河川砂防、土木関連に要する経費

消防費…消防事務、風水害・地震などの災害防除、災害が生じた場合の被害軽減活動の経費

教育費…教育委員会、小・中学校、社会教育などすべての教育関係経費

災害復旧費…災害によって生じた被害の復旧に要する経費

公債費…市債の元金・利子・一時借入金の子金などの返済にあてられる経費

投資的経費…普通建設事業（工事関係費）と災害復旧事業に要する経費

人件費…議員、各種委員の報酬、職員の給与費、地方公務員共済組合負担金などに要する経費

扶助費…乳幼児医療費や児童手当など、福祉に関する経費

補助費…各種団体への助成金などに要する経費

平成
30
年度

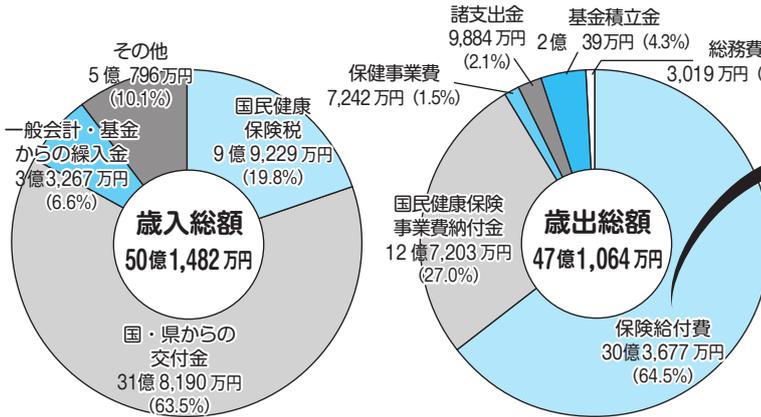
特別会計

主な事業
の決算

市の財布には、通常の行政事務でお金を出し入れする「一般会計」と、特定の事業のためのお金を出し入れする「特別会計」、「公営企業会計」があります。今回は、4つの特別会計の歳入・歳出（平成30年度決算）と、それぞれの主な使い道の推移をグラフにしました。

国民健康保険事業

国民健康保険に加入している人が、病気やけがで診療を受けたとき、その医療費（本人負担分を除いた費用＝保険給付費）を負担しています。

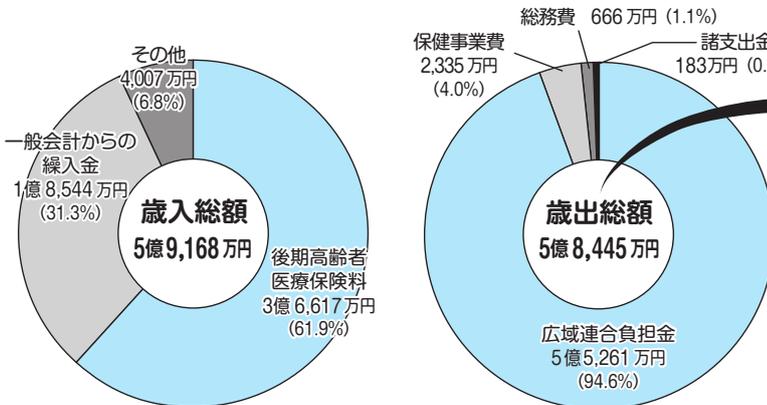


保険給付費の推移



後期高齢者医療事業

75歳以上の人（一定の障がいがある人は65歳以上）は、後期高齢者医療制度に加入します。運営は岐阜県後期高齢者医療広域連合が行い、市は保険料の徴収、各種申請などの業務を行っています。

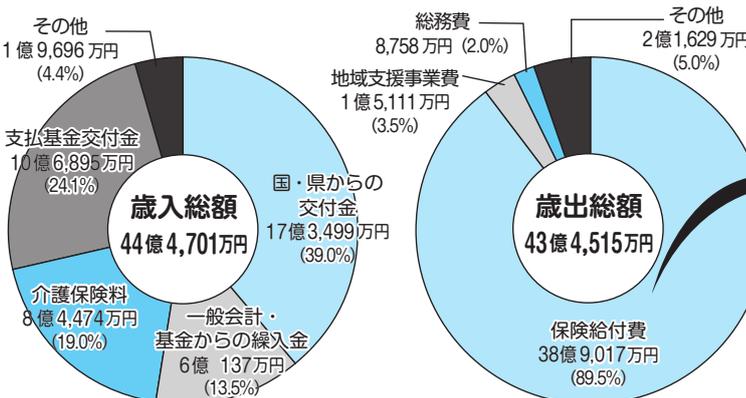


歳出総額の推移

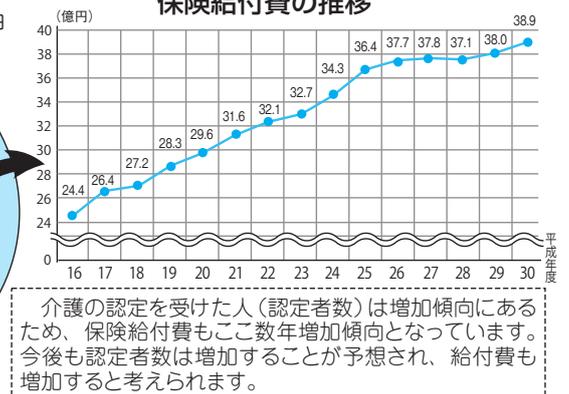


介護保険事業

介護や支援が必要になったときに介護サービスや介護予防サービスを提供し、保険加入者とその家族を支援します。サービス費用のうち、本人負担を除いた費用（保険給付費）は国保連合会を通じて事業者を支払われています。

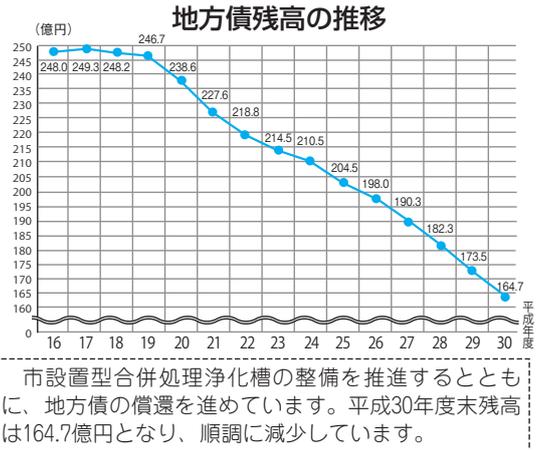
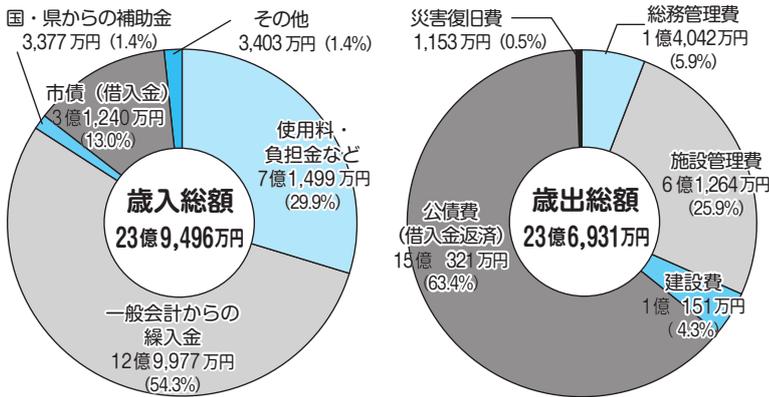


保険給付費の推移



下水道事業

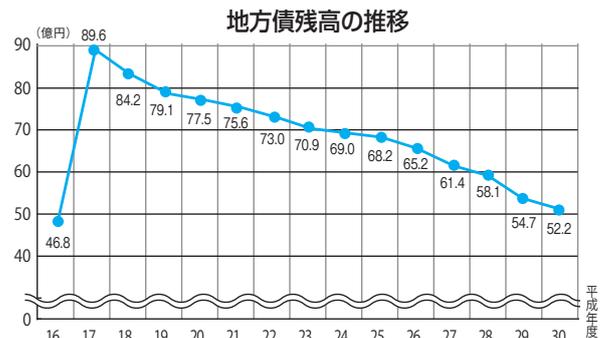
下水集合処理施設及び市設置型合併処理浄化槽の適正な維持管理を行うとともに、快適な暮らしと良好な環境づくりのため、施設整備に取り組んでいます。これらの施設の整備のために借り入れたお金の残高(地方債残高)の推移は、下のグラフのとおりです。



公営企業会計

病院事業会計

郡上市市民病院と国保白鳥病院を運営する会計です。平成21年度から改革プランを実施し、一時は経営の改善がなされましたが、平成26年度以降厳しい決算状況となっています。今後も、平成28年度に策定した第二次改革プランに沿って経営改善に努めます。



年度別純利益の推移 (純利益=収益-費用)

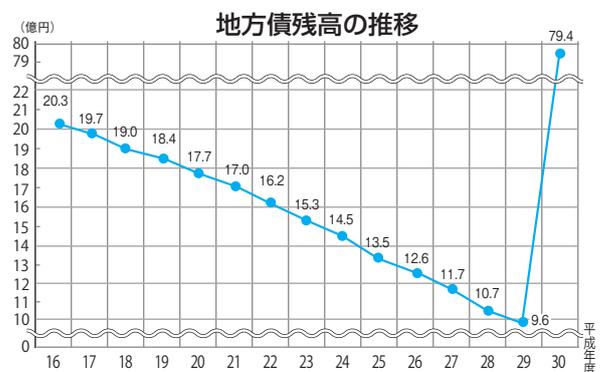
年度	16	17	18	19	20	21	22	23
純利益	△237,269	△363,660	△334,499	△613,262	△321,465	△163,056	50,358	132,395
年度	24	25	26	27	28	29	30	
純利益	201,475	63,346	△190,007	△116,577	△237,975	△228,669	△199,589	

【単位:千円】

上水道事業会計

上水道とは、計画給水人口が5,001人以上の施設をいいます。平成30年度、簡易水道事業を統合し、給水区域の40か所を運営しており、一般会計繰入金を受け入れながら、安定した経営が続いています。

なお、簡易水道事業を上水道事業に統合したことにより、それまでの簡易水道事業特別会計の地方債残高が算入されたことに伴い、平成30年度末の地方債残高は一挙に増加しています。



年度別純利益の推移 (純利益=収益-費用)

年度	16	17	18	19	20	21	22	23
純利益	15,268	21,586	29,489	24,048	27,410	28,073	26,337	33,248
年度	24	25	26	27	28	29	30	
純利益	25,888	74,702	57,669	70,662	75,830	73,403	33,763	

【単位:千円】